

(仮訳)

プレス・リリース

2021年6月7日

バーゼル銀行監督委員会は新型コロナウイルス感染症の銀行への影響について議論し、金融危機後の規制改革を評価し、暗号資産に係る市中協議の実施に合意

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、新型コロナウイルス感染症の銀行システムに対するリスクについて議論し、引当実務についてレビューし、資本及び流動性バッファの利用の重要性を強調。
- コロナ禍におけるバーゼル枠組みの影響を評価した中間報告書のレビューを実施。
- 暗号資産エクスポージャーに係るプルデンシャルな取扱いに関する市中協議の実施に合意。

バーゼル委は2021年6月4日に会議を開催し、新型コロナウイルス感染症の銀行システムに対するリスクについて状況把握（ストックテイク）を行うとともに、政策及び監督上の取組みについて議論した。

新型コロナウイルス感染症のリスクと脆弱性

不均衡な回復と不確実なグローバル経済環境の下、銀行及び監督当局は、更なるリスクと脆弱性に対して、引き続き警戒しなければならない。バーゼル委は、銀行がショックを吸収し、信用力の高い家計や企業への貸出を維持するために、バーゼルⅢの資本及び流動性バッファを活用すべきというガイダンスを改めて表明する。メンバーは、最近最終化されたオペレーショナル・レジリエンス及びオペレーショナル・リスクのための諸原則に沿って、銀行がオペレーショナル・レジリエンスを強化することが重要であると強調した。バーゼル委はまた、パンデミック期間中の銀行の引当実務について議論した。バーゼル委は、これらの実務を引き続きモニターし、国際的な会計・監査基準設定主体や監査法人と積極的に関わっていく。より一般的には、バーゼル委メンバーは、バーゼル枠組みに対する一時的な調整が、その全体的な目的と整合的であり、かつ余裕を持って解除されることを確保するために、こうした調整に関する意見交換やモニタリングを継続する。

金融危機後の規制改革の影響評価

バーゼル委は、実施されたバーゼルⅢ基準のパンデミック期間中の影響について予備的な評価を与える報告書をレビューした。この中間報告書は、金融危機後の規制改革の影響評価に関するバーゼル委のより広範な作業計画の一部である。同報告書は7月に公表される予定であり、その調査結果の諸要素は、G20 財務大臣・中央銀行総裁に提出される、新型コロナウイルス感染症から得られた金融安定上の教訓に関する金融安定理事会（FSB）の中間報告書に含まれることになる。

暗号資産

バーゼル委は、暗号資産に関連する市場の発展と、銀行の暗号資産エクスポージャーに係るプルデンシャルな取扱いを策定するための次のステップについて議論した。銀行の暗号資産へのエクスポージャーは現在のところ限定的である一方、具体的なプルデンシャルな取扱いがない場合には、一部の銀行における関心の高まりに伴って、暗号資産と関連サービスの継続的な規模の拡大及び革新が、世界的な金融安定性に対する懸念と銀行システムに対するリスクを増大させる可能性がある。

バーゼル委は、銀行の暗号資産へのエクスポージャーに係るプルデンシャルな取扱いのデザインについて、外部関係者の見解を求めるための市中協議を行うことに合意した。これは、以前のディスカッション・ペーパー、広範な関係者からのコメント、及び他のグローバルなフォーラムや基準設定主体で進行中の取組みを踏まえている。同市中協議文書は今週公表される。